

一休、日本の労働組合は、労働組合として發達するよりも、無政府主義、共產主義、サンジカリズム等、思想的影響を先きに受けた、それは日本が世界の後進國として此れを得ぬ事であるが、その模倣と拜政思想が形拜として押し寄せ、日本の實然に適應する労働組合運動が、その思想的波濤に採られ、その結果が地味な組合運動よりも華やかな思想演習に終始し、そのために組合運動の一次進歩のなき機会を逸し、組織を破壊し更に分裂抗争して労働組合運動の發達と回復したことは、少しく過去の無産者運動を注意するもの、苟く周知する處の事実である。

總聯合は、かゝる思想演習を批駁し、一路労働組合運動に専念せんとするものである。従つてその結果として、従来労働組合と言へば、その思想的影響の結果として、條約否認、國家否認などといふことと云つてゐたのであるが、總聯合は立派なことは主張しない、唯だ只管に労働組合運動に鋭意せんとするものである。その結果は、我が國の國際感情に即して行かばならぬ事は當然の道として示されてゐる。總聯合はそれとすなほに受け入れ、我が國の國情に即して労働組合運動に鋭意努力してゐるのである。

る。それが他の、赤だとか黒だとか桃色だとか云つてゐる労働組合と比較して異色あるところに總聯合が國家主義的傾向ある労働組合と認識せらるゝに至つたもの、やうである。

従つて國家主義的と云つても好戦的な排外的な愛國團體とはその本質を全く異にしてゐるのである。素より日本國民といふ認識を明確に把持してゐるのであるから日本を愛する念に至つては何人にも譲らぬと信じてゐるものである。かゝる事は平凡な事であり當然な事であるが、労働組合の陣営内では異色のある異とも考へらる。即ち同一家に非ずば人に非ずば式にマルキシズムに非ずば労働運動に非ずばと考へてゐる時に、マルクス所謂労働者に祖國なしとの護符を有難がらず現實の認識に立脚して國家の存在を確認し、労働運動の基調も亦かゝる認識の上に立つと主張するところに總聯合の平凡の非凡がある。

勿論現在の國家權力がブルジョア支配の道具となり、その採取機關となつてゐることとは認める。従つてこれに對しては闘争せなければならぬことは勿論である。しか